

都留重人関係資料

本資料群は、一橋大学経済研究所所蔵の都留重人名誉教授寄贈資料より、「近現代日本の専門職業人養成教育資料データベース= Database of Modern Educational Materials for Training Experts (MEMTE)」の趣旨に沿った資料を抽出したものである。

都留重人名誉教授寄贈資料については、こちら→<http://www.ier.hit-u.ac.jp/library/Japanese/collections/tsuru.html>

本資料群における解説及び Archivists Note の作成にあたっては、『都留重人自伝：いくつもの岐路を回顧して』（岩波書店 2001）を参考にした。

本コレクションには、都留重人名誉教授寄贈資料のうち以下のものが含まれる。

- ・ 英語によるレポート(1932-1939)
- ・ 東京大学特別講義資料(1943-1944)
- ・ 一橋大学経済研究所ゼミ資料(1954-1969)

英語によるレポート(1932-1939)

都留重人(1912-2006)は 1929 年に名古屋の第八高等学校に入学し、全国高専大学英语雄弁大会にて八高の優勝に貢献するなど活躍していたが、治安維持法違反容疑にて八高を除名された。そのため、父親の勧めで 1931 年に渡米し、高等教育は米国で受ける。最初は、つてを頼ってウィスコンシン州のローレンスカレッジに入学したが、2 年後ハーバードカレッジに転校し優秀な成績(マグナ・クム・ラウデ)で卒業した。その後、ハーバードの大学院に進学し、シュンペーターの下で経済学を学び、1940 年博士号を取得する。その後も米国に留まり、ハバラーやレオンチェフの助手等を務めたが、開戦後第 1 次交換船で帰国した。この時、文書・資料などの持ち出しは厳しく制限されたので、都留の滞米中の研究の全容がすべて残されている訳ではない。

英語のレポートは、都留により一括してファイルに纏められていたものである。米国に留学後、まだ専攻を決める前の時期に書かれたものと、ハーバードにて作成されたものに分かれる。レポートには、丁寧な添削の跡が見られ、表紙には評価が明記されている。

No	Issue Date	Title	Authors
1	1932	Outline of some neurological considerations of vitalism vs mechanism controversy	Tsuru, Shigeto
2	1932-10-27	W.James: Pragmatism	Tsuru, Shigeto
3	1933-01-05	Transition of thought from the primitive to the modern	Tsuru, Shigeto
4	1933-07-28	Essence and knowledge	Tsuru, Shigeto

5	1933-08-01	After reading "A theory of the labor movement" by Prof. Perlman	Tsuru, Shigeto
6	1934-04-30	On construction and criticism of a rational system of beliefs	Tsuru, Shigeto
7	1933-12-05	Non-competing groups	Tsuru, Shigeto
8	1936-01-22	A Case study of the contrast between causal and functional relations (1936)	Tsuru, Shigeto
9	1938-01	The Value analysis and the theory of international trade in Marxian economics	Tsuru, Shigeto
10	1939-12-15	Impressions of America	Tsuru, Shigeto
11	1934-12-20	Dialogue between Diderot & Marx	Tsuru, Shigeto
12	1935-04-10	An aspect of Marx's methodology in economics: "the fetishism of commodities"	Tsuru, Shigeto

東京大学特別講義資料(1943-1944)

交換船で帰国後、最初に行なった講義は、高木八尺からの依頼による東京大学での講義である。当時、東大法学部では、アメリカ論を対象にした「ヘボン講座」が開かれていたが、ここで「第一次大戦後の米国の政治と経済政策」と題する特別講義を、1943年2月から3月にかけて5回にわたって行なった。その講義原案は、翌年『米国の政治と経済政策—ニューディールを中心として』と題して有斐閣から出版された。

原資料には、焼け焦げと水濡れの跡が見られる。これは、都留がクーリエとしてソ連出張中だった1945年5月、米軍の空襲で当時仮寓していた和田小六邸の都留の書斎に大型焼夷弾が落とされ、被災したものである。(和田昭允氏の談話による 2016年5月19日)

No	Issue Date	Title	Authors
1	1943	「第一次世界大戦以後の米国の政治と経済政策」講義草稿	都留, 重人
2	1943	[研究ノート]	都留, 重人
3	1944	『米国の政治と経済政策』原稿	都留, 重人

一橋大学経済研究所ゼミ資料(1954-1969)

戦後、都留は1948年に一橋大学の経済研究所に教授として就任した。1949年に所長に就任したおり、都留は『一橋新聞』(第426号 1949年10月15日)へ「経済学研究の先端に一橋経済研究所の構想」と題した文を寄稿している。「…研究所に勤務する教官が研究活動を

主とするものである以上、原則として講座を担当しないのが当然であるが、殊に共同研究的色彩の強い研究題目については、研究の効果を一そう効果あらしめるためにも、又研究が独断的になることを防ぐためにも、定期的な研究会を開くことが望ましいと思う。その主旨から経済研究所は現在も一種のセミナーをいくつか開いている。このセミナーは、教官の講義やセミナー参加員の報告を中心として、できるだけ討議の機会を多くしながら問題をほりさげてゆくことを主眼としたもので、公開を原則として、広くいろいろの立場から問題の検討を行いうるよう心掛けています。学生諸士がすすんでこのセミナーに参加して清新の気をふきこんで下さることは、われわれにとっても願ってもないことだ。」

研究所のセミナーは、学生の自由参加を歓迎した問題別オープンセミナーである点が、学部のゼミとは異なる。1949年から開講されたが、都留重人名誉教授寄贈資料に含まれている研究所セミナー関係資料は、1950年～1974年のものである。今回はその一部を公開した。経済研究所において最初に開設された5課目の一つが「国民所得及び再生産論」である。

No	Issue Date	Title	Authors
1	1954	「国民所得論 1954年」	都留, 重人
2	1957	「ゼミ 1957-58」	都留, 重人
3	1959	「成長率の問題 '59 講義」	都留, 重人
4	1966	昭和 41 年度「国民所得」講義	都留, 重人
5	1967	「再生産論 講義 1967-8」	都留, 重人
6	1969	「経済発展論」大学院講義 昭 44 年夏	都留, 重人